

## ピアノ学習の自主的な継続のための指導法について

杉山 祐子<sup>1)</sup>, 栗屋 晴香<sup>2)</sup>, 今村 初子<sup>2)</sup>, 葛谷 悦子<sup>2)</sup>, 田中 智子<sup>2)</sup>, 富沢杏安音<sup>2)</sup>,  
橋本 亜紀<sup>2)</sup>, 村瀬 潤子<sup>2)</sup>, 森 摩樹<sup>2)</sup>, 和田 早苗<sup>2)</sup>, 岡田 泰子<sup>1)</sup>

### Study of Teaching Methods for Voluntary Continuation of Piano Learning

Yuko SUGIYAMA, Haruka AWAYA, Hatsuko IMAMURA, Etsuko KUZUYA,  
Tomoko TANAKA, Ayane TOMIZAWA, Aki HASHIMOTO, Junko MURASE,  
Maki MORI, Sanae WADA, and Yasuko OKADA

保育現場では、身近な鍵盤楽器であるピアノでの伴奏を活用し、子どもの育ちを豊かにする活動は欠くことができない。しかし、保育者を目指す学生のピアノ技能は多様である。さらに、保育者になった後のためにも、ピアノ学習の自主的な継続の習慣は重要である。そこで、保育者養成課程でのピアノ指導で、対面のレッスンに加え、ピアノ練習記録表を用いて、学生からは毎日の練習量の記録の提出と、その記録に対する指導者からの助言や練習方法、意欲面の指導をやりとりした。その結果、やりとりの開始より、週が進むごとに練習量が増加し、継続的な練習習慣の形成が見られた。しかし、授業の無くなった2年生に対しピアノ練習状況調査を行ったところ、半数以上の学生が練習の必要性を感じていながらも困難さを抱えていることが明らかになった。この結果から、1年次で培った練習習慣の継続のための指導法の改善の必要性が生じた。学生が抱える困難さが明白になったことから、今後更なる指導法を検討していく。

**キーワード：**ピアノ学習、指導法、自主的、練習量

## I 問題と目的

保育現場では、子どもたちの日常生活に音楽は欠かせない。特にうたの必要性は高いと考えられる。そのための保育者の技能としてピアノ演奏力も子どもたちの情緒や創造性に果たす役割が大きい。領域(表現)にある「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」といった場面の創設には、保育者自身の音楽的感受性が幼児の音楽的表現への関連がみられることが報告されている(小池, 2009)。一方、保育者養成校では、入学時にピアノ初学者が存在し、一斉授業では技能向上は困難であり、指導法の多様性が報告されている(鈴木, 2015)。また、卒後の保育現場でピアノ技能は、練習の継続が無くては向上はもとよ

り技能は加速的に低下する。一般的にも、ピアノ練習は日々努力した結果を週1回のレッスンで評価や助言を受けることで、さらに努力するといったサイクルで技能を上げていく。保育者養成校の授業でも、技能の多様な学生が対象であることから、1対1の個人レッスンを実施することで、個別対応を重視している(杉山, 2014)。

2018年度に示された保育士・幼稚園教諭資格取得のための科目の改定において、実技の科目単位数は削減となり、これまで2年間毎週行ってきたピアノ指導に関わる授業が半減となった。短期大学では2年次に3回の実習と就職試験が五月雨式に実施される。したがって、学生は2年次でもピアノ学習の自主的な継続は必要となっている。

そこで本研究では、ピアノ学習の自主的な継続を

1) 短期大学部幼児教育学科 2) 中部学院大学短期大学部(非)

促す指導のあり方について、関連する2つの調査の結果と今後のピアノ指導の考察を行う。1つは、現在の2年生のピアノ練習状況調査である。2つには、ピアノ練習記録表を用いた学生の練習量である。この2つの調査は、学生の2年間のピアノ学習の状況を横断的に見ることになる。その上で1年時でのピアノ指導を検討する。(杉山 祐子)

## II 調査1 2年次でのピアノ練習状況調査

### II-1 方法

#### II-1-1 対象者

C短期大学保育者養成課程2年生87名。

#### II-1-2 期間

2019年6月28日(金) 15:00から10分程度。

#### II-1-3 手続き

2年生になり3か月ほど経ち、10日間の保育実習終了後2週間ほどたった時点で、質問紙調査によりピアノ練習の状況を調査した。質問の内容は以下である。

質問1 2年生になりピアノは弾いているか。(選択)

質問2 「弾いている」の回答者のみ、どのように練習を工夫しているか。(自由記述)

質問3 「弾いていない」の回答者のみ、理由は何か。(選択)

質問4 今後、ピアノ演奏が必要になった場合、1年次のピアノ授業での1年間の取り組みを生かすことができるか。(選択)

質問5 1年次のピアノ授業の先生の指導で、今役立っていると思うことは何か。(3つまで自由記述)

質問6 保育実習I(2年次6月実施)では、ピアノを弾いたか。(選択)「弾いていない」の回答者のみ、ピアノを弾いていない理由。(自由記述)

質問7 今後の実習や就職試験でのピアノに対する心配や困ることはあるか。(自由記述)

質問8 今後、困ったときはどのように解決していきたいか。(選択・複数回等あり)

なお、質問1から3までは、2年生になった学習者自身の様子、質問4、5は、ピアノの学習方法への考えを質問した。さらに、質問7、8で、これからのピアノ練習での困難や不安の解消法について質

表1 2年生になり、ピアノの練習はしているか

	人数	割合
日常的に弾いた	9	10.3%
時々弾くことがあった	20	23.0%
ほとんど弾いていない	32	36.8%
弾いていない	26	29.9%
計	87	100.0%

問した。また、保育実習で、ピアノ演奏の有無を質問6で調査した。回答は選択制と、一部自由記述とした。(杉山 祐子)

### II-2 結果と考察

質問紙調査の回答は、87名全員から得られ、回収率は100%であった。以下に、質問毎の結果と考察を述べる。

#### II-2-1 ピアノの授業が無くなった2年次のピアノ練習状況について

##### II-2-1-1 2年生になり、ピアノを弾いているか。(質問1)

質問1の結果を表1に示す。「日常的に弾いた」、「時々弾くことがあった」の回答の学生は、全体の3分の1に留まっている。その中で、1割の学生が自律的に「日常的に弾いている」と回答したことは、努力の高さが伺える。しかし、「ほとんど弾いていない」と「弾いていない」の回答が約3分の2あり、継続的なピアノの練習から遠ざかっている学生の多いことが分かった。2年次は実習が3回ある。その1回を修了した直後の回答だけに、実習でのピアノ演奏の有無との影響も考えられる(後述)。就職活動も今後本格的に開始される時期だけに、これらに対する準備として、ピアノ演奏が意識されていないことが懸念される。保育現場で音楽を活用している限り、養成校時代にピアノもしくは音楽での表現技術を磨いておくことは重要である。さらに現段階では、2年次でピアノ授業があった前年度の環境とは違う。今年度の保育実習や就職試験でのピアノ技能の必要性や活用状況を多面的に調査する必要があると思われる。(今村 初子)

##### II-2-1-2 ピアノ練習の工夫について(質問2)

質問1で、「日常的に弾いた」、「時々弾くことがあった」と回答した29名に、ピアノ練習の工夫について質問した。その結果、29件の自由記述が得られた(資料1(巻末))。内容として、練習方法につい

て、練習量について、技術に関する記述が見られた。まず、ピアノのレッスンに通っている学生が5名あり、1年次の練習習慣を保つよう、定期的な外的刺激を自ら課していることが分かった。また、「毎日練習する時間を決めている」、「時々時間を作って練習している」といった自分の意志で練習を管理している記述もあった。反面、「時間がある時に弾く」や「弾きたいと思ったら弾く」など気分の自由さも見られた。このように、弾いたと回答した学生は、練習のためになんらかの工夫をしている。ピアノは定期的な指導を受けて向上していく技術であることから、1年次での指導は授業の無くなった2年次にも繋がる必要性が認識された。（今村 初子）

### II-2-1-3 弾いていない理由について（質問3）

質問1で「ほとんど弾いていない」、「弾いていない」と回答した理由を、4択で調査した結果を表2に示す。まず、「必要ない」の回答では、今後の実習や採用試験で演奏機会がないという意識の無さがみられ、意識の低さが懸念される。

それに対し、「必要だが、弾きたいとは思えない」の回答は最も多く半数を超えていた。この場合は、必要性の認識がある以上、なぜ弾きたくないかの原因を理解し、意欲喚起する支援が必要と分かった。「必要だが、練習方法が分からない」との回答からも、ピアノの必要性は認識されている。練習方法について、1年次での基礎技能習得の定着が問題と示唆された。また、1年次には毎回練習記録表を使った指導者と学生のやり取りで構築してきたピアノ練習習慣を1年かけて培ってきた。この練習習慣が、レッスンが無くなった為に分からなくなるという事実は指導方法にも反省点が求められるであろう。指導者の一方方向な教授ではなく、学生主体の練習法になっていることの再点検も必要であろう。

「その他」の自由記述では、練習時間が無いと答えた学生が最も多い（表3）。忙しい日常にあっても、5分、10分の空いた時間をピアノの練習に充てることは不可能とは言い難い。以上から、練習しない理由が意欲面の課題であることが示唆された。その解決策の1つとして、2年次でも定期的な書面でのやり取りを設定し、やりがいや達成感の定着による意欲の維持を考案する必要性が分かった。

（田中 智子）

表2 弾いていない理由は何か

	人数	割合
必要ないから	7	12.1%
必要だが、弾きたいと思えない	30	51.7%
必要だが、練習方法が分からない	7	12.1%
その他	14	24.1%
計	58	100.0%

表3 質問3に、4.その他を選択した「弾いていない」

理由の自由記述	
練習する時間がない	4
施設に就職し弾く機会もなく必要と思っていない	1
嫌いだから	1
やらないといけなことは分かっているが、やる気が出なくて毎日できない。	1
気が向いた時だけ弾いている	1
実習前に少し弾いたり、気分で弾く	1
練習する時間がない	1
忙しい	1
弾きたいと思えない	1
弾きたいけれど、やる気がなくなってしまった	1
やらなければならないときにやればよいから	1

### II-2-2 1年次でのピアノ学習の振り返りと、今後のピアノ練習方法について

#### II-2-2-1 1年次でのピアノ学習の振り返り（質問4）

質問2において「習ったことを忘れないように弾いている」との意見が見られた。このことから、1年次のピアノ授業と今後のピアノ練習との関連について調査した。その結果、「思い出して活用する」との回答が49.4%と約半数あった（表4）。加えて、「少しは役に立つようにする」が31.0%あり、合計80.4%の学生が1年次の授業で何かしらの学びを得ることができたと見られる。1年次の学びは、前期は基礎技能、後期は弾き歌いの技能習得である。学習内容から、技能を身につけることに加え、継続する姿勢を身につけることも目的の1つである。3分の1程存在する初学者はピアノの練習法を知らな

表4 音楽ABでの取り組みを生かすことができるか

	人数	割合
思い出して活用する	43	49.4%
少しは役立つようにする。	27	31.0%
あまり覚えていない	12	13.8%
役に立つとは思えない。	3	3.4%
自分なりのやり方を考えてみる	2	2.3%
計	87	100.0%



かったことから、技術と意欲が定着したといえる。一方、「あまり覚えていない」、「役に立つとは思えない」の17%の回答からは、以下の考察を持つ。まず「あまり覚えていない」に関して、学生1名当たり10分程度といったレッスン時間の短さが影響していると考えられる。短時間では学習の印象や指導の記憶が定着しなかった、もしくは、学生の納得が得られなかったことも危惧される。「自分なりのやり方を考えてみる」の回答では、プライベートでピアノのレッスンに通っている学生が存在するならば、十分に時間をかけてピアノを習うことに慣れており、10分という短いレッスン時間では物足りなく感じているかもしれない。(富沢 杏安音)

#### II-2-2-2 1年次の指導で、今役立っていると思う観点について(質問5)

指導者は、1年間の個別指導により学習者に適応した助言を継続してきた(杉山祐子ほか, 2019)。2018年度のピアノ授業で学習者への“言葉がけ”により学習者の技能や意欲の向上に有効であることが調査報告された。しかし、本年度は授業での指導が無い。そこで、1年次で学んだ観点を役立てているかを、3つまでの自由記述で回答してもらい集計した。その結果を「技術」、「練習方法」、「心構え」、「指導」の4つの観点到に整理した(表5)。観点のそれぞれの内容については、巻末の資料2に掲載した。

役立っている回答の総数は177件であった。技術に関する事柄が半数以上であった。中には、ピアノ演奏の心構えに触れた学生もあり、今後の学びへの根本となっていることが見られた。また、マンツーマンの指導ならではの記述もあった。このように、学生は1年間で多面的にピアノ学習や指導者と接していたことが分かった。それを3ヶ月以上たったこの時期にも思い出すことができることは、指導者と手応えと責任の重さを痛感する。また、質問5にあるように、「あまり覚えていない」、「役に立つとは思えない」の回答や、「特になし」や「無記述」が15%程見られた。これは記憶の問題では無く、気力や、ともすると指導者との関係性にも起因するかもしれ

ない。「技術」では、初歩的な音符の読み方やリズムのとりかた、強弱などが多くカウントされた。その多くが初学者の回答だと推測される。また少数ではあるが、歌の大切さ、導入の仕方など、ピアノの技術だけではなく、将来の保育者の姿も想定し、練習していることが見られた。しかしながら、「練習方法」や「心構え」に関する回答が、もう少し多く出ることが期待される。2年生になり個人で練習をしていく為には、技術が必要であることももちろんだが、練習方法や心構えがしっかり構築されていないと、練習の継続は難しいであろう。この観点到に、指導者は意識を持って向かうことが重要と考える。

(富沢 杏安音)

#### II-2-3 これからのピアノ練習での困難や不安の解消法について(質問7, 8)

##### II-2-3-1 今後の実習や就職試験でのピアノに対する心配や困ることについて(質問7)

調査では、学生の今後のイメージの想定を基に回答を得ている。その自由記述(複数回答含む)を表6に示す。「レパートリー」の回答が13名で最も多く、他の回答の2倍近くあった。レパートリーは子どもの歌を指している。今までに学習した弾き歌いの曲や自主練習で弾いた曲だけでは、やはり少ないと痛感している様子が見られる。「弾きうたい」と回答した7名も併せると、弾きながら歌うことの困難さや苦手意識を感じていることが分かる。その解消には、1年次の授業でまず苦手意識の払拭を目指す方法として、仕上がるまでの過程を丁寧に示すことが有効であろう。「練習方法がわからない」の回答も7名あった。1年次前期のピアノの基礎習得の段階でいつでも振り返りができるマニュアルや資料の作成が有効であり、記録を残すことで2年次での活用が可能であろう。次に、少数ではあるが「子どもたちにしっかり教えられるか」、「幼稚園実習でうまく弾けるか不安」の回答が見られた。現時点で、将来の現場で実際に弾いていることを想定することは、学習の目標となり、この機会に個人の課題を自覚し、解決する方へ向かわせられる支援を考えたい。

表5 音楽 AB の先生の指導で、今役立っていると思うことは何か

	技術	練習方法	心構え	指導	特になし	無記述	計
カウント数	109	18	18	6	2	24	177
割合	61.6%	10.2%	10.2%	3.4%	1.1%	13.6%	100.0%

反面、抽象的な回答も見られた。「全部が心配」「心配しかない」にあるように、不安が大きく表立って困難に思っている学習者もいる。漠然とした不安を解消するために、自分が何でつまづいているかを認識できる機会が必要であることが分かった。

(橋本 亜紀)

## II-2-3-2 今後のピアノ練習の困難さの克服方法について (質問8)

1年次では、質問7で発生しているピアノ練習の困難さは、授業で指導者に直接相談し克服することができた。2年次で発生するピアノ練習の困難さを、学生はどのように解決へ向けていくかを調査した。その結果を表7に示す。最も多かったのが「自分でなんとかする」で、3分の1以上の回答があった。この回答は、自立の方向を示していると考えられる。これまでの質問調査の結果と関連させてみる

表6 今後の実習や就職試験でのピアノに対する心配や困ること (複数回答)

レパートリー	13
弾き歌い	7
練習方法が分からない	7
緊張してうまく弾けるか不安	4
心配しかない	4
表現力	4
音符がまだ読めないで不安です	3
リズムが分からない	3
暗譜	2
歓声の仕方	2
子どもたちにしっかり教えられるか。	2
幼稚園実習でうまく弾けるか不安。	2
笑顔	2
新しい曲が弾けない	1
歌うこと	1
指使い	1
楽譜を見ない	1
完成の仕方	1
がんばるしかないかなと思います	1
子どもを見ながらピアノを弾くこと	1
これから保育士になった時	1
正誤、メロディーのつかみ方	1
どんな曲がいいのか、どんな弾き方がいいのかわからない	1
長い曲の弾き歌いが心配。	1
何がと特定なことは言えない。全部が心配。	1
ピアノへの自信	1
場慣れしないから緊張する	1
みんなの前で導入からのピアノを弾くこと	1
試験になると緊張して弾けなくなりそう	1
就職試験で演奏が止まってしまうか不安	1
特にない	6
ない	9
計	87
無記入	5

表7 今後、ピアノで困った場合の進め方 (複数回答)

	人数	割合
先生に相談したい	24	26.4%
自分でピアノを習う	11	12.1%
わかる子に相談する	23	25.3%
自分で何とかする	32	35.2%
その他の方法⇒	1	1.1%
計	91	100.0%

と、資料1に、「既にピアノのレッスンに通っている」、「今までレッスンした曲を忘れずに弾いている」、「YouTubeを見て自分で練習している」といった回答があるように、ピアノ練習の必要性や意欲を感じ自主的に励んでいることにより、「自分で何とかする」と回答したと考える。また、表4からも、1年間の学びを思い出して活用しようという姿勢がみられることから、本研究が目指している2年次での自律的なピアノ練習の構築に、3分の1の学生は向いていることが分かった。また、「先生に相談したい」が26.3%、「分かる子に相談する」が25.3%あった。1年次の段階でも活用されていた練習手段であったため、2年次でも同様に活用を希望しているととらえられる。練習の自立は求めるところではあるが、独りで行う孤独なピアノ練習臭いて、助けを借りず進めることは、初学者の多い養成校でのピアノ練習では課題も発生しやすい。表6にあるように、「練習方法がわからない」、「音符が読めない」、「リズムがわからない」の意見があるように、この課題を何かのタイミングで他者の意見や情報交換ができる環境を整備することも、指導者、保育者養成校の役割と考える。「自分でピアノを習う」は1割にとどまった。ピアノを自主的に習うことは、金銭面・時間面で困難さを抱える学生も存在する。自律的なピアノ練習の必要性を認識し、学校の空き時間を利用することや、分からないことを先生や友だちに聞きながら、効率の良い練習が望ましい。

(橋本 亜紀)

## II-2-4 2年次のピアノ演奏機会状況の調査 (保育所実習)

### II-2-4-1 保育所実習でのピアノ演奏の有無(質問6)

2年次の6月に実施された10日間の保育実習において、ピアノ演奏をしたかを質問した。日常的あるいは時々弾いたと回答した割合は26.4%に留まり、

73.6%がピアノを弾く機会がない、弾いていないと回答した(表8)。ピアノを弾いていない理由の記述をみる(表9)と、「弾くように言われなかった」、「弾く場面や機会がなかった」という実習先の指示や指導を挙げた学生が49.3%と最も多く、担当者からの指示待ちといった消極性がみられた。本来、保育実習の体験を通して学習の意義が確かめられ、今後の学習への動機づけとなるのが望ましいが、演奏の技術は身に付けていても、自らが誘発的に音楽的な活動を実施する機会を創り出すまでに至っていないと考えられる。確かに、保育所は0歳児から6歳児まで幅広い年齢のクラスにおいて、ピアノの活用は様々であろう。学生にとっても、まずは保育園の活動に慣れることが優先され、10日間中でのピアノ演奏の優先度が低い可能性も推察される。もう一面として、保育現場の音楽的な活動の在り方が変化し

つつあることも影響しているかもしれない。しかしながら、保育現場では音楽に関わる活動は多岐にわたる。ピアノ演奏は、専門的な分野の技術習得に留まらず、たとえ演奏技術は初歩的段階であっても学んだ知識と技術をどのように保育現場で活かすか、またコミュニケーションツールとしての活用の可能性を考えると、一層の積極性や柔軟な発想が求められる。(葛谷 悦子)

### Ⅱ-3 ピアノ練習状況調査の全体的考察

今回実施した2年次でのピアノ練習状況調査について、学生から様々な声を聞くことができた。保育者養成校で、1年次に受講したピアノ実技の授業を通して、学生のピアノや弾き歌いに関するイメージが、個々で確立されつつあることが散見される。例えば、2年次でピアノの授業が削減され、その後「ほとんど弾いていない」、また「弾いていない」学生が過半数存在すること、またそのように回答した学生が、弾いていない理由について、「必要だが弾きたいと思えない」と回答した。このことは、授業の有無により、ピアノの練習状況も変化するというのが伺える。また、保育実習でピアノを「ほとんど弾いていない」、また「弾いていない」と答えた学生は7割を超え、その理由の筆頭に、「先生より弾くように言われなかった」と回答していることは、保育現場の状況を捉えつつ、学生が対応する姿として伺える。ここで注目したいのは、教員側からみれば、「受け身」や「消極的」などと学生をネガティブに捉えるのではなく、保育現場の現実も我々教員が理解し、学生を長い目で見守ることも必要と考える。また、入学前の不安要素に挙げられる「ピアノ」について、1年次の授業を経て、ある程度落ち着いたと捉えられることも出来るのではないかと推察する。(岡田 泰子)

### Ⅲ 調査2 授業時のピアノ練習状況について

授業の無くなった2年生へのピアノ練習状況の調査結果から、1年次でピアノ練習の自主的な継続を促す指導の再確認が必要と考えられる。そこで、現在進行中の1年次の授業において、ピアノ学習の継続状況を見ることにした。

表8 保育実習Ⅰでは、ピアノを弾いたか

	人数	割合
日常的に弾いた	8	9.2%
時々弾いた	15	17.2%
ほとんど弾いていない	4	4.6%
弾いていない	60	69.0%
計	87	100.0%

表9 保育実習でピアノを弾いていない理由

	人数	割合
先生より、弾くように言われなかった	10	14.9%
ピアノを弾く場面が無かった	7	10.4%
先生が弾いていない	3	4.5%
部屋にピアノが無かった	3	4.5%
あまり歌う機会が無かった	2	3.0%
弾く必要が無かった	2	3.0%
未満児だったから	2	3.0%
「弾きます」と言っていないから	1	1.5%
1年目の先生が練習として弾いていたから	1	1.5%
歌うことが少なかった	1	1.5%
先生が弾かなくても大丈夫とオリエンテーションの時にいったため	1	1.5%
使わなかったから	1	1.5%
無かったし、記録が大変	1	1.5%
苦手と伝えておきました	1	1.5%
弾くのが苦手と言ったら、それ以外で願うといわれた。	1	1.5%
弾ける曲が無かった	1	1.5%
未満児のクラスでピアノよりCDを使っていた	1	1.5%
もらった歌と違う歌を歌っていた	1	1.5%
わからない	1	1.5%
無記述	26	38.8%
計	67	100.0%



### Ⅲ-1 方法

#### Ⅲ-1-1 対象者

C 短期大学保育者養成課程 1 年生のピアノ指導の授業を受講している学生を対象とした。その授業の 2 年分の比較をする。2018 年度は 84 名、2019 年度は 83 名である。

#### Ⅲ-1-2 期間

2018 年 4 月 10 日～7 月 16 日の 14 週間。

2019 年 4 月 09 日～7 月 15 日の 14 週間。

なお、1 年毎の期間内を、以下の 3 期に分けて分析する。

第Ⅰ期は 4 月最初からゴールデンウィーク終了まで 4 週間として、ピアノ練習のための準備期と位置づける。第Ⅱ期は、ゴールデンウエーク明けから 6 月中旬の 6 週間で、大学生活にも慣れた安定期と位置付ける。第Ⅲ期は、6 月中旬から 7 月中旬までの 4 週間で、学生生活も多様になる時期と位置づける。

#### Ⅲ-1-3 手続き

学生は毎週、授業終了後に 1 週間のピアノ練習時間を振り返り、ピアノ練習時間記録用紙に記入している（図 1）。その記録を週毎に集計して、ピアノ練習状況を分析する。2018 年度の開始時期には、2 年次でピアノの授業が無くなる計画はなかったため、教員は過去の指導と大きな変化はなく実施された。しかし、2019 年度は、開始時期に 2 年次の授業が無いことが決定していたことから、1 年間の指導で 2 年間のピアノ練習の見通しを立てなくてはならないとの意識を持った。そのため 2019 年度は、練習時間記録用紙に、学生による自己の振り返りに対する教員の助言を記入する欄を新しく設けた。これにより、対面の指導に加え、練習時間や技術に関する助言を強化することとし、ピアノ練習習慣の定着を図った。その追加した効果が練習時間に表れるかを

2 年間の違いで評価する。項目として、週毎の一人当たりのピアノ練習時間量と、練習をしなかった日数（以下、練習ゼロ日）の 2 点で比較することとした。（杉山 祐子）

### Ⅲ-2 結果と考察

#### Ⅲ-2-1 ピアノ練習量について

14 週間のピアノ練習量を 2018 年度と 2019 年度で比較した（図 2）。第 1 期、第 2 期は少しばらつきが見られ、第 3 期はほぼ同じであるが、全体的には 2 年の差はほとんどなかった。まず第 1 週では、まだピアノに触れる環境が整っていないことがみられる。特に初学者は例年ピアノ所持や教材等の準備が間に合わないことがある。そのため学習の初動では練習量が最も少なくなっていると推察できる。2 週目に入ると、練習環境も整い始め、ここにきて取り組むべき課題が全員明確になることから、2 年とも同様に練習量が増える。第 3 週にかけて、2018 年度は 2019 年度ほど練習量の落ち込みがみられず、第 2 期に向けて安定している。第 2 期は練習の安定期で、この時期に練習時間の確保がようやくできている。毎日の練習時間記録を書くことにより、ピアノに向かう意識づけができている。学生個人から、「朝弾く習慣がついた。」や、「1 日 1 回はピアノに向かうのが習慣になった。」「毎日弾かなくてはと思うが実践できていない。」といった意見が聞かれた。このことから、多くの学生に練習の大切さは浸透している。第 3 期は、前期の実技試験に向けて練習時間確保は出来ているが、他の科目の試験勉強やレポート提出が増加する時期で、練習時間の伸びは見られなかった。このように 2018 年度と 2019 年度で大きな差は見られないが、2019 年度は、第 2 期・第 3 期で練習量の安定がみられる。指導者の助言記入が加わったことで、学生と指導者との間で意識の共有が出来ていた。このように、時間の変化では表れない意識の変化が授業での様子から見て取れる。

（村瀬 潤子）

#### Ⅲ-2-2 1 人当たりピアノ練習ゼロ日数について

「ピアノ練習ゼロ日数」については、練習時間量とはほぼ連動している（図 3）。第 1 週目はゼロの日数が最も多く、その後緩やかにゼロの日数は減少している。14 週の折り返しである第 2 期の第 7 週（5

2019年度ピアノ練習時間表		学籍番号		氏名			
				担当( )先生			
目標 7日中( )日はピアノに触れ、1回に( )分は集中して練習しましょう。							
自分で立てる目標:							
	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)
①	4/9	10	11	12	13	14	15
練習時間(分)	分	分	分	分	分	分	分
学生振り返り	技術:			意欲:			
教員コメント	技術:			意欲:			
②	4/16	17	18	19	20	21	22
練習時間(分)	分	分	分	分	分	分	分
学生振り返り	技術:			意欲:			
教員コメント	技術:			意欲:			

図 1 ピアノ練習記録表（一部分）

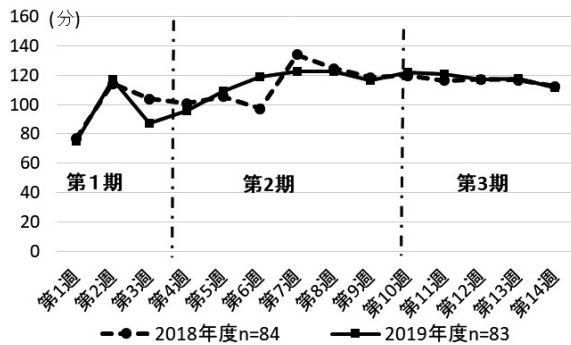


図2 週毎の1人当たり練習時間

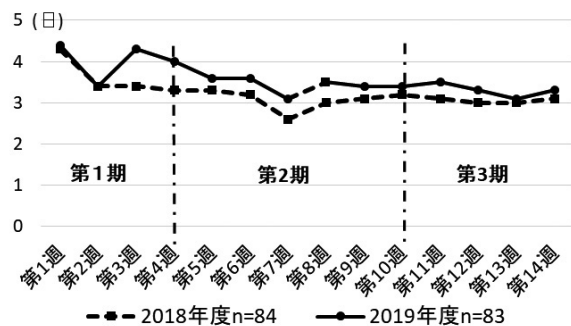


図3 週毎の1人当たり練習ゼロ日数

月第4週)に特徴が見られた。この1週のみ、両年度ともに最も練習ゼロ日数が減る。練習量も同様であったことから、練習習慣が最も充実した週と言える。これは、第8週に中間チェックという機会が設けられており、他学生の前での演奏をするということで、普段よりも練習日が増えたと見られることから、このタイミングでの中間チェックの有効性が示された。それ以降の週は、1週間の練習日数がほぼ固定され、折り返し地点から学生の学習パターンが安定することが分かった。学生個々の記録表を見ても、練習が曜日で固定されている場合が多い。第3期では、第2期の流れの加速を期待するところであるが、一層の伸びがみられなかった。この時期は、他教科の試験勉強やレポート作成にも忙しく、練習したい気持ちはあるが思うように時間を工面できないという学生の声もあった。2018年度と2019年度の比較では、練習量の差は見られない反面、練習ゼロ日数では第1週以外は2019年度の方が常に多かった。これは、多めの練習日数に分散しての練習ではなく、少ない練習日数にまとめた練習に因ると推察する。ピアノの練習は、できる限り毎日練習することで技術を効率よく習得できるとの定説があることから、本年度増設した言葉がけの欄の意義が、更

に伝わる言葉がけの工夫は教員の課題と考える。しかし、ただ言葉で説明するだけでは、恐らく学生の心には届かないであろう。この実感から、さらに多面的な方法を探ることが、まとめた練習に偏らないように軌道修正するための手段と考える。

(森 摩樹)

### Ⅲ-2-3 2019年度の技能別3グループによるピアノ練習量の比較

2年間の全体的比較では差が見られなかったが、本年度の様子を詳細に分析するために、技能による初級グループ・中級グループ・上級グループの3つに分けて比較した。ここで述べる初級グループはピアノ経験なし、中級グループは5年以内の経験者、上級グループは5年以上の経験者である。この技能別で見た場合、グループによる違いが表れた(図4)。初級グループは、練習量が他のグループより多くなっている。これは「ピアノを弾けるようになる」という外的要因に対し、努力をしている姿の表れと捉えられる。指導者も初歩段階の指導にも丁寧に対応力していることから、練習量が増し、努力を止めると技能は急落する初期段階であることへの問題意識も高くなったと思われる。上級グループは、週毎の変化が顕著である。上級者は両手奏がすでに身に付いており、筆者の経験からも、1曲の仕上げに要する時間の見通し練習が身についている。常に練習をするというより、生活の都合等に合わせ、必要な時必要な量の練習がなされていると推察できる。中級グループは、練習量が最も低い。ピアノ経験がまだ5年以下で演奏技術も十分とは言えないことから、初級グループと同様に、困難さを乗り越えようという姿勢を持つべきであろう。改めて、ピアノに少し慣れている学生への練習習慣の改善を指導していかなければならない。

(栗屋 晴香)

### Ⅲ-2-4 2019年度の技能別3グループによるピアノ練習ゼロ日数の比較

次に、前述のグループによる、ピアノ練習ゼロ日数の比較を行った(図5)。3グループとも週が進むと練習ゼロ日数が減少していく傾向にあった。初級グループは、第2週から練習ゼロ日は減り始め、図4の練習量の安定さと併せ、ピアノ練習に対する真摯な姿勢がうかがえた。レッスンを通して練習方



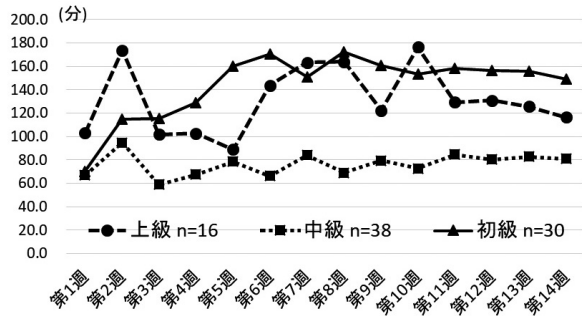


図4 週毎の一人当たりの練習時間(2019年度)

法が理解され、困難さを1つずつ解決していく練習スタイルの定着が見られる。上級グループの特徴は、14週の半期に当たる第7週以降で練習日数が多くなり、練習回数の安定的確保が見られる。これは、ピアノ経験の豊富さ故の練習習慣がようやく発揮され、練習スタイルが安定したことによると推測される。しかし最後に練習時間・練習日数共に他グループより減少している。この時期は、前期試験曲が決まり反復練習が必要である。上級者として更なる向上を目指し練習に取り組む姿勢の指導の必要性が示唆された。中級グループの特徴は3グループ中で練習日数が最も低く、第14週まで週の半分以上練習をしていないことである。Ⅲ-2-3で述べた、中級グループの練習量は他のグループより少ないことと併せて(図4)、ピアノに向かう意識の希薄さがうかがえる。この結果から、自分の課題を意識して練習に取り組む習慣定着の指導が必要と考えられる。3つのレベル別に分析したが、レベルに関わらず、ピアノ練習ゼロ日数を減らす難しさが見られた。確かに、自主練習は学習者それぞれの意志や環境に合った形で形成すれば良いが、指導としては、1年次でピアノ実技が終了することを考え、練習の継続の大切さをより伝える工夫が課題と考える。

(和田 早苗)

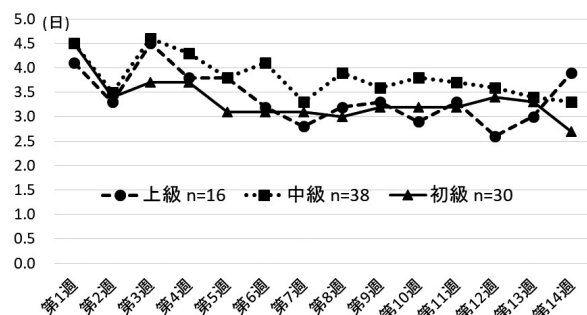


図5 週毎の一人当たりの練習ゼロ日数(2019年度)

## Ⅳ まとめと今後の課題

学生の質問紙調査から、2年次で練習していない学生ほど不安を持っていることが明らかであった。1年間のかかわりで、指導者は音楽の楽しさや、卒業後の自分の姿をイメージさせ目的意識を高める指導を目指して指導を行った。学生は、指導がなくなった時にも思い出して活用している様子が見られた。しかし、自主的な練習の継続の困難さやその理由が今回の調査で判明した。この現状は今後の指導の観点に生かすことで、困難さを予防する指導法とすることができる。例えば、困っている内容の1つであるレパートリーや練習方法に焦点を当てた指導の強化である。この困り感を解消する助言を丁寧に行うことで、学生が自信を持ち、人前での演奏に向かえる。安心や自信を高めていく地道な指導の重要性が見られた。これはピアノ練習に限らず、将来の職場でのイメージを早くから意識できる指導法は、養成校の大切な使命と考える。

また今回の調査で、保育現場でのピアノ演奏の必要性の変化も感じられた。ピアノの授業に限定せず、領域「表現」を踏まえた総合的表現活動の授業などで、音楽への理解と共感を深めることが、保育現場でのニーズ対応となるであろう。このように、現場での姿を視野に入れた指導により、学生のピアノ練習の価値を高め、ピアノ練習の自主的な継続の一助となることが分かった。

授業の無くなった2年次でのピアノ練習の実態調査は、調査開始1年目で前例がないことや、前期での調査に留まっていることから、今後継続して調査することとする。(杉山 祐子)

## Ⅴ. 文献

- 小池美知子 (2009) 「保育者の音楽的感受性が幼児の音楽表現に及ぼす影響」 保育学研究第47巻第2号, pp60-69
- 杉山祐子 (2014) 「ピアノ学習者の自律的学習を進めるための“評価的やりとり”の試み」 全国大学音楽教育学会紀要 第25号, p.11-20.
- 杉山祐子, 今村初子, 葛谷悦子, 田中智子, 富沢杏安音, 丹羽美枝子, 橋本亜紀, 村瀬潤子, 森摩樹, 山田かおり, 和田早苗, 岡田泰子 (2017)

「ピアノ指導における2名と学習による“評価的やりとり”の有効性について」中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要第18号, p.155-164.

杉山祐子, 今村初子, 葛谷悦子, 田中智子, 富沢杏安音, 丹羽美枝子, 橋本亜紀, 村瀬潤子, 森摩樹, 山田かおり, 和田早苗, 岡田泰子 (2019) 「ピアノ指導者の言葉がけからみる指導の観点に関する研究」中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究第3号-1, pp155-164.

鈴木由美子 (2015) 「初等教育課程教員及び保育士養成校におけるピアノ実技指導に関する一考察」千葉敬愛短期大学紀要第37号, p.74.

#### 資料1

##### 質問2)の自由記述

質問1で「日常的に・時々弾く」と答えた場合、どのように練習を工夫しているか n=29

1	毎週ピアノのレッスンに通っているので、日常的に家で練習している。
2	音程がイマイチ分からないときは、動画を見たりします。間違えやすい所を重点的に弾くようにしています。
3	ピアノのレッスンに通っている
4	子どものうたや、自分の弾きたい曲を弾いた
5	今までやってきたのを忘れないように弾いている
6	何度も弾いて覚える
7	あ、弾きたい。と思ったら弾いている
8	ピアノ教室に通って、季節の歌を弾いています
9	教科書に載っている自分の知らない曲も弾いて、レパートリーを増やしている。
10	家で弾いてみる
11	授業でやったことが無い曲を弾く
12	まだやったことがない曲を弾く
13	バイトが無いときとか、暇なときに弾いている。幼稚園実習の内諾書を取りに行ったときに、楽譜をもらったので、危機感があって弾いている。
14	好きな曲を弾く
15	弾ける曲を忘れなうように、何度も弾く
16	家で弾いています
17	家で弾く
18	時間があるときに弾いている
19	聴いたことのある曲の譜面を見て弾くことがある
20	毎日15分は練習している
21	なし
22	ピアノのレッスンに通っている
23	毎日練習する時間を決めている
24	習ったことを忘れないよう、繰り返し
25	ピアノのレッスンに通っている
26	時々時間を作って練習しています。
27	自分で弾きたい曲を楽譜から読んだり、YOUTUBEを見ながら弾いている
28	保育実習で弾き曲を練習している
29	YOUTUBE音源を聴く

#### 資料2 音楽ABの先生の指導で、今役立っているとおもうことの記述内容

【技術】	カウント
音符や記号が読める	16
リズムのとりかた	14
歌い方（大きく、明るく）、大切さ	14
強弱	12
曲のレパートリーが増えた	7
弾き歌いができるようになった	5
指使い	4
音楽の表現力	4
間違えても流れを止めない	4
指の動かし方	3
テンポを守る	3
導入の仕方	3
歌の導入	3
手の位置、かたち	2
曲の全体的なイメージがつかめた	2
ペダルの踏み方	1
弾き方	1
弾き歌いは練習の段階から歌って練習する	1
弾き歌いはピアノを完璧にしてから歌う	1
前よりピアノが弾けるようになった	1
いそがない	1
弾き方の雰囲気	1
ピアノを見すぎない	1
左手に困ったら、和音にする	1
弾き歌いが少し好きになった	1
覚えた曲が弾けている	1
弾くときにしっかりと音を出す	1
2つのことを同時に行う力	1
計	109
【練習方法】	
片手ずつ練習する	5
毎日ピアノにさわることが大切	2
練習方法が分かった	2
コツコツ練習する	2
間違えるところを重点的に練習する。	1
少しずつ部分ごとに練習する。	1
とりあえず弾く	1
今までやったのは少し覚えている	1
くりかえして練習	1
目をつむって弾いたりする、目線を鍵盤から外す	1
口ずさみながら弾く	1
計	18
【心構え】	
自分が明るく元気よく！笑顔	4
楽しかった！嬉しさ	2
楽しみながら弾く	2
間違えても歌い続ける	1
みんなの前で弾くこと	1
焦らずに弾く	1
自信を持って弾く	1
諦めない心	1
ピアノへの興味を持ったから	1
テストでプレッシャーに負けないこと	1
失敗しても最初からではなく途中から	1
楽しさ	1
少しピアノを弾くのが楽しいと思った	1
計	18
【指導】	
たくさん教えてもらって自信が持てた	1
優しい励まし	1
コツをまとめて伝えてくださった	1
ある程度ペースを許諾してくださった	1
基礎を教えてくださったので役立っている	1
先生の励ましで難しい曲に挑戦しようとする気持ちになった	1
計	6